

## ことばだより

Vol.11

2023（令和5）年3月

## 巻頭

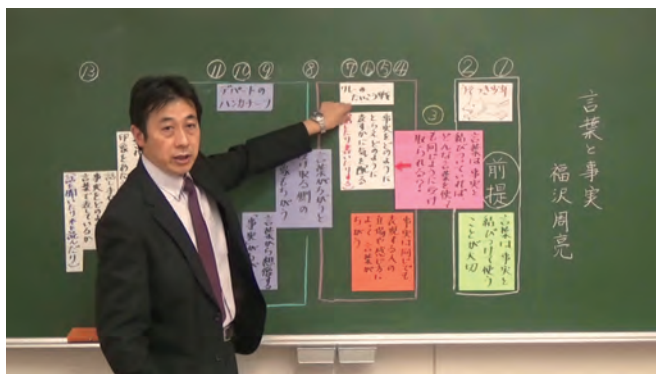
## 教科書関連資料のご紹介

教育出版では、弊社国語教科書『ひろがる言葉 小学国語』をお使いになっている全国の現場の先生が、指導の一助となるような各種資料をご用意しています。どのような資料があるのか、そのご紹介をいたします。

## 「学習動画」のご紹介

教育出版のウェブサイトで、「学習動画」が公開されていることをご存じでしょうか。

これは青木伸生先生（筑波大学附属小学校）が、『ひろがる言葉 小学国語』の「読むこと」教材の「てびき」を使い、模擬授業を行っている動画です。1教材あたり、3～5分ほどの動画複数本で構成されており、空いた時間にさっと見るできるようになっています。



▲五上『言葉と事実』の学習動画④

当初は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、これまでのように学校に通えなくなった子どもたちに向け、学びの機会を確保するための自学自習用資料としてご用意しました。子どもたちだけでなく、先生がたにもぜひご覧いただき、『ひろがる言葉 小学国語』を使って、どのように授業作りをすればよいのか、参考にいただければうれしく思います。

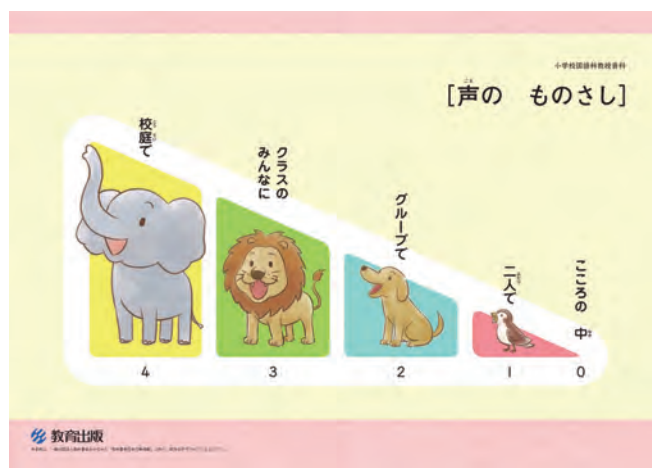
現在、二上『「えいっ」』、三上『白い花びら』、五上『人とねずみの「はい、チーズ！」』／『言葉と事

実』の3本が公開されておりますが、今後、一下『みぶりで つたえる』、三下『おにたのぼうし』、四下『木竜うるし』、五下『まんがの方法』と、順次コンテンツを増やしていく予定です。更に、青木伸生先生に加え、白坂洋一先生（筑波大学附属小学校）にも授業を行っていただきます。どうぞご期待ください。

## 教室掲示資料のご紹介

教育出版では、教科書教材をもとにした教室掲示資料もご用意しています。

ご用意しているのは、現場の先生がたからご要望の多かった巻末付録の「言葉の木」と、二上『声のもののさし』で掲載されている「声のもののさし」です。



▲「声のもののさし」の掲示資料

どちらも A2 サイズとなっており、教室で日常的に語句の系統を示したり、声の大きさを意識させたりすることができます。ご活用いただけましたら幸いです。

資料をご所望のかたは、営業担当者  
または事業推進部（03-5579-6546）まで。



# 「ラーニング・マウンテン —学びのプランを立てよう—」のご紹介

2022年10月より、教育出版のウェブサイトでは、  
かばやまとしろう 樺山敏郎先生（大妻女子大学）監修「ラーニング・マウンテン —学びのプランを立てよう—」（以下、「ラーニング・マウンテン」）の資料を順次公開しています。ここでは、「ラーニング・マウンテン」とはどのようなもので、どのように日々の授業に活用できるのかをご紹介します。



## 1. 「ラーニング・マウンテン」とは

「Let's Climb the Mountains of Learning」（学びの山に登ろう）の略称で、三領域における単元の学び全体を「山登り」にたとえ、子どもたちが目指す頂上（ゴール）とルート（プロセス）をデザインし、見える化したものです。コンピテンシー・ベースの国語科授業を目ざし、ユニバーサル・デザインに配慮しながら、子どもとともに創る学びの実現につなげるねらいがあります。

▲「ラーニング・マウンテン」（記入用の面）

授業のねらいを教師が理解していることはもちろん必要ですが、子どもたちも同じねらいを認識することによって、学ぶことの必要感をもちながら、より深い学習へとつながっていきます。

このことに関して、中央教育審議会から次のような報告がなされました。

これまで、評価規準や評価方法等の評価の方針等について、必ずしも教師が十分に児童生徒等に伝えて

いない場合があることが指摘されている。しかしながら、どのような方針によって評価を行うのかを事前に示し、共有しておくことは、評価の妥当性・信頼性を高めるとともに、児童生徒に各教科等において身に付けるべき資質・能力の具体的なイメージをもたせる観点からも不可欠であるとともに児童生徒に自らの学習の見通しをもたせ自己の学習の調整を図るきっかけとなることも期待される。

この評価の共有の課題に応えるしかけが、「ラーニング・マウンテン」なのです。

「ラーニング・マウンテン」は、単元の導入時では、学び全体を見通すことに、学びの途中では、随所での主体的な振り返りに、単元の末尾では、単元を通しての振り返りに活用できます。そしてなにより、学習の道筋と頂上（ゴール）を常に意識できるため、最後まで粘り強く、学びを調整していこうとする態度を培えます。

教育出版で公開している「ラーニング・マウンテン」は、A3の紙を二つ折りにしたサイズで、1枚につき「読むこと」の1単元を扱っています。では、実際にどのように「ラーニング・マウンテン」を活用するのかご説明いたします。



## 2. 「ラーニング・マウンテン」の活用方法

「ラーニング・マウンテン」は、片面の上段に、教育出版の教科書教材をもとに樺山先生が作成した「ラーニング・マウンテン」のモデルが示されており、下段には、教材の趣旨や指導内容の要約がまとめられています。教科書を使ってどのような言語活動を通して、どのような資質・能力を身につけていくのかがわかるため、ここだけでも教材の要点をつかむ資料として活用することができます。もう一方の面は、記入用となっており、ここに自分のクラスの「ラーニング・マウンテン」を作ることができます。

まずは、教材の趣旨や指導内容の要約を読み、教材の特徴をつかむとともに、それをいかに「ラーニング・マウンテン」に落とし込むのかを、上段のモデルを参照しながら、理解してもらえればと思います。そして、裏

面が「ラーニング・マウンテン」を記入できる用紙になっていますので、子どもたちに配付し、オリジナルの「ラーニング・マウンテン」を作ってください。

また、公開されているものをもとに、ステージ数を増減させたり、学習用語についての枠を設けたりなどして、目の前の子どもたちに合わせ、自由にカスタマイズしてみるのもよいでしょう。

の世界』、一下『お手がみ』、二下『さけが大きくなるまで』など、合計10本を発行していく予定です。



『読解×記述 重層的な読みと合目的な書きの連動』  
(樺山敏郎 著)

「ラーニング・マウンテン」は、こちらの書籍でもご紹介をしています。

授業作りに役立つ情報やセミナー情報等を、教育出版の公式LINEアカウントにて配信中です。こちらのQRコードより「友だち追加」をお願いいたします。



### 3. 今後の発行予定

2023年2月現在、教育出版のウェブサイトには、四下『ごんぎつね』、四下『ウミガメの命をつなぐ』の2本が公開されています。

今後は、六上『川とノリオ』、六下『ぼくの世界、君

**1** 単元名「大事な言葉や文に気をつけて要約しよう」全(9)時間

**2** 知識・技能: 段落のまとまりやつながりを理解して文章の内容を見える。

**3** 思考・判断・表現: 興味をもったことを中心に、大事な言葉や文に気をつけて要約し、紹介する文章を書く。

**4** 主体的に学習に取り組む態度: 主体的に学習に取り組む態度

**5** 学習のゴールです。単元全体の振り返りの観点で示されています。

**6** 単元を三つのステージに分け、それぞれのステージでの時数・学習内容・つけたい力が示されています。

**7** 単元の趣旨や特徴が示されています。

**8** この単元で身につけた力をもとに、取り組む言語活動が示されています。

**9** 言語活動に取り組む際のポイントや、更に発展的な活動が示されています。

**【四下『ウミガメの命をつなぐ』の例】**

①単元名や単元全体の時数、そして「みんなで解決したい問い」(学習課題)が示されています。

②この単元で身につけさせたい資質・能力が示されています。左から「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」となっています。

③学習のゴールです。単元全体の振り返りの観点が示されています。

④単元を三つのステージに分け、それぞれのステージでの時数・学習内容・つけたい力が示されています。

⑤学習のスタート地点です。既習事項を確認します。子どもが主体的に学びを展開していくことを、高みを目指す山登りのようなものと捉えています。

⑥単元の趣旨や特徴が示されています。

⑦単元で身につけたい資質・能力と評価規準が示されています。

⑧この単元で身につけた力をもとに、取り組む言語活動が示されています。

⑨言語活動に取り組む際のポイントや、更に発展的な活動が示されています。

# 教室で楽しむ ことば遊び

「ことば遊び」を活用した言葉の学習の実践を紹介!!

## 第五回 三行ばなし

むかい よしひと  
向井吉人（元東京都小学校教員）

### 1. みんなで遊ぶ

まず、「三行ばなし」と黒板に書いて、更に右のような枠を描いていきます。上の三つのますそれぞれに「あ」を入れます。すると、「あいすと、あめなめて……」などと声が聞こえてきました。いやあ、勘のいい子がいるものです！

|   |   |     |
|---|---|-----|
| あ | あ | あ   |
|   |   | ありが |

次に、三行で書ける短いお話を作ってみようと、まず「ありが」と入れ、あとの二行をつなげてもらいました。

**ありが あんこを ありがとう**

たくさんの手が上がりますので、どんどん発表してもらって、あれこれ突っ込みを入れるなどして、掛け合いを楽しみます。そして、一行めを「あさ」、二行めを「ありが」に書きかえて三行めを考えてもらいました。

**あさ ありが あんぱんまんをたべた**

との発表があり、大爆笑・大うけでした。やなせさん、アンパンマンは健在ですよ！

谷川 俊太郎さんの『あいたたた』という、「あ」で始まることばで書かれた詩を1学期に音読しましたので、「あっちっち」とか「あいたたた」などのことばを覚えていた子もいました。

頃合いを見計らって、同じ枠を描いて、上のますに「あ」から順に「い」「う」……と同じ平仮名を三つ入れ、子どもとやりとりしながらお話作りを進めます。もちろん、まちがった音で始まるフレーズを言う子もありますが、そこはやりわりと、「おもしろいけど、『い』から始めてね。」などと伝えます。

### 2. お話を三行で作る

25分ほど遊んだところで、いよいよ創作です。作品が三つ書けるプリントを配って、上のますには同じ平仮名を三つ書いてから始めます。

**さっとかける さんぎょうばなし さあはじめよう！**

書けたら提出してもらい、こちらで選んだ一作品を短冊に清書させて、教室に掲示することにしました。短冊にしてもらった作品の中から、幾つか紹介してみましょう。

**こうえんで こすもすと こしょこしょしやべった**（ひかり）

**きりんが きりのなかで きなこをたべる**（あい）

**ばびぶべ ばんだが ばんつをとられた**（あいら）

**よる うさがが よっぱらって よーいどん**（てる）

**ひこうきが ひこうちゅうに ひきこもる**（はると）

こうして読んでみると、全体として動物を主人公にしている作品が多いことは、一年生という学年を考えればおのずとうなずけます。短いお話ですが、主人公が設定されている点がおもしろいですね。

また、作品には、オノマトペがしばしば使われます。「こしょこしょ」のほかにも、「にーにー」「ごろごろ」「うーうー」などがありました。

この遊びは、音が限定されることにより、引き出されたことば・フレーズから、思いがけないイメージが三行で表現されます。きな粉を食べるキリン、酔っ払ったうさが、飛行機のひきこもりなど、思わず笑っちゃうイメージです。

短冊には、イラストもあわせて描いてもらいました。



向井先生の「ことば遊び」は、『できる！つかえる！ことば遊びセレクション』（太郎次郎社エディタス）にもたくさん紹介されています。

#### 本誌の デザイン

『小学国語通信 ことばだより』では、デザインに季節ごとの「かさねの色目」（平安時代以降の服飾文化に用いられた色彩）をイメージした配色を用いています。今号では、かさねの色目の中から、海中の岩に生える海藻、海松の色を表した「海松色」を選びました。ぜひ次号のデザインもご覧くださいませと幸いに存じます。

※「かさねの色目」の組み合わせには、諸説あります。

小学国語通信 ことばだより Vol.11 2023（令和5）年3月発行

教育出版株式会社 編集局 国語科

〒135-0063 東京都江東区有明3-4-10 TFT ビル西館

TEL：03-5579-6278（代表）